

学生による語り合いのシンポジオン 2016 活動報告
学内外における学生主体の建築活動（教育・研究・実践）

シンポジオン世話人会

シンポジオンでは、学生諸君の精力的な活動について話題提供の場を設け、語り合いと自由討議により参加者全員で交流することを目的としています。シンポジオンは 2 部構成となっており、前半は話題提供として学生たちの活動プレゼンテーション、後半は会場全体での自由な語り合いが行われます。

2016 年度は、北陸支部大会（7 月 23 日～24 日、於：福井大学）と大会（8 月 24 日～26 日、於：福岡大学）において、シンポジオンを開催することができました。ここに、当日の内容を紹介しながらご報告いたします。

1. 北陸支部大会行事

日時：2016 年 7 月 24 日（日）13:00～15:30
場所：福井大学文京キャンパス 111M 講義室
参加者：30 名（学生 22 名、教員・一般 8 名）

2. 大会(九州)関連行事

日時：2016 年 8 月 25 日（木）14:00～17:00
場所：福岡大学七隈キャンパス 2 号館 B1 会議室 1
参加者：10 名（学生 8 名、教員・一般 2 名）

3. 活動プレゼンテーション内容(2大会を通して)

①細呂木プロジェクト

発表者：下中雄一、宮崎隼也（福井工業大学、下川勇研究室）

まちづくりの一環で「細呂木プロジェクト」と題して地区の活性化を考え、体験スポット、コンセプトギャラリー、簡易スーパー、宿泊室を設けた複合的な機能地区を提案されていた。また歴史上の人物として、親鸞、蓮如に加えて地元の名士である多賀谷氏にもスポットを当て、施設外観も含めてプレゼンされていた。

②ヴィジュアルプログラミングを活用したあかりオブジェの造形デザインと制作

発表者：廣瀬寛騎（金沢工業大学、下川雄一研究室）

動的に 3 次元の空間造形をしたり構造的・環境的な視点で造形デザインの検討を進める手法である「コンピューテーショナルデザイン」を用いてあかりの容器をデザインする。低コストなデザインとして、一枚の材をおりたたんで形を作る手法をあみだし、シンポジオン当日は実際に制作された照明器具をスライドで紹介されていた。

③ Compact Village in くりから 一中山間地域における新しい住まい方の提案一

発表者：池尻謙太（石川工業高等専門学校、熊澤研究室）

当該地域は木曾義仲の源平合戦の遺跡をはじめ多くの文化資産が残る地域であるが、少子高齢化、若者離れにより、集落の維持が難しくなっている。こうした問題を中山間地域の問題としてとらえ、集落再建の1つの解決案として、「コンパクトビレッジ」構想を提案されていた。

④ 子どもの遊び場と地域の関わり

発表者：玉村知哉、田伏正弥（Fukui Play-Studio 遊房）

「遊房」とは、子どもたちの遊び空間を提供することで生きる力を育む手助けをしている学生団体である。主な活動として、(1)福井大学横の雑木林にて、プレイパークを2週間に1回実施する(2)汚れ遊びの良さを知ることを目的に、泥んこ祭りを年1回実施する(3)トレインアドベンチャーを通して、地域の大切さを子どもに伝える、という3つの取り組みを紹介されていた。

⑤ 知的障害者施設「ハスの実の家」での暮らしと実践

発表者：野田真士（福井大学）、仲村春乃（福井県立大学）

「何においても、自分らしく暮らすことが大事です。」と前置きされて、知的障害者施設「ハスの実の家」での活動を報告された。「自分らしい暮らし」の実現のために、自由な選択性のある暮らし方が必要であり、さらには日常的に人や地域社会とつながることが重要であることを主張されていた。

⑥ 伊能忠敬のようなこと～世界最大の世界地図を描く～ 他

発表者：諫見康彦先生（九州産業大学）

諫見研究室は学生主体で地域活動を多面的に展開し、街づくり・ものづくり・人づくり・家づくり・事おこしをテーマに、学生が考え制作して、地域社会の役に立つ研究活動と教育実践を実施している。今回、「伊能忠敬のような」として校庭に世界最大の世界地図を描いたプロジェクトを中心に、いくつかの取り組みを発表された。

⑦ アニメで街おこし・街づくり

発表者：富樫豊（NPO 知識の結）

街づくりにおいて、最近の宮崎駿作品や細田守作品からアニメのロケ地が街の活性化に一役買っている事例が紹介された。特に「おおかみこども」の舞台を対象として、自然の静寂さについて議論が及んだ。

⑧ 子どもの環境づくりとランドスケープデザイン

発表者：寺田光成（千葉大学）

自らが学部学生のころから携わってきた地域活動と、その後、留学して外国で学び培った子どもの遊び環境について、豊富な実践経験を資料写真とともに紹介されていた。帰国してからは園芸ランドスケープの視点で地域活動を捉えており、そこでの実践事例も報告されていた。

4. 語り合い、自由討議

当日の討議風景を写真で紹介する。



5. 参加者の感想

- ・自分は環境系だが、今回のシンポジオンを通して計画系のことも分かり、よかった。
- ・自分の提案に対して厳しい意見も聞けてよかった。語り合いではぜひ他のグループの話も聞きに行きたかった。
- ・小学生、障害者のまちづくりの概要が知ることができてよかった。
- ・いろんな問題がつながっていて、多くの方々の思いを知ることができてよかった。
- ・私は社会福祉学科の学生だが、他の分野のことも知ることができてよかった。自分と共通することが多々あることが分かった。

謝辞

このシンポジオンは、第1回目を福岡大学で実施して、全国を一回りし、今年9回目として再び福岡大学にて開催することができました。こうして継続できているのも、これまでの有形無形に支えていただきました皆様方のおかげです。心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

野田真士（シンポジオン世話人会代表）